



上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子



大 船 山

第 20 号

令和6年2月28日

ホームページアドレス <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>



上矢作小に根付いてきたもの

校長 細江 幸次

左の写真は学校のピロティからグラウンドへ降りていく生垣の片隅に咲いた福寿草です。これは一昨年の3月8日に地域の方に分けていただいた株を植え付けたものが、何とかこの場所に根付いてくれたようです。



私が本校に着任する際の挨拶に福寿草の話をしたのですが、あまりに反応が弱かったのがきっかけとなり、校地内に福寿草の株を譲り

受け、移植したのがその経緯です。まだ肌寒いこの時期に他の植物に先駆け、黄金色に輝く花を見ていると春の訪れを感じるとともに、力強く生きようとする生命力を感じてきます。

一年の締めくくりに来て、この福寿草のように上矢作小学校に根付いたものは何だろうかと考えてみました。そう考えると一番に浮かぶのが「静けさづくり」です。今年度は特に児童会の面々が下校集会にその観点で集まる時の様子を評価しています。『静けさづくり』は言葉の通り、強制的に黙らされるのではなく、周りの状況に応じて静かな空間と時間をつくり出す個々の営みです。これは下校集会に限らず、朝読書や掃除の時間、全校集会や教室移動の時にも見られる様子です。このような時、場所で意図的に静けさをつくり出すことができることは他で何かをしている人たちに迷惑をかけないことにもつながります。つまり、「静けさづくり」とは自分を取り囲む周りの状況がよく見えていないとできない思いやりの心でもあったと考えます。

挨拶についても多くの子どもたちが気持ちよくなるようになってきたと感じています。特に朝の登校時は学年を問わず、自分から進んで挨拶する姿が多くなりました。また授業中でも先生に褒められたときに、「ありがとうございます」とか、自分がうっかりミスをしてしまったときもすかさず「すみません」ということが聞こえてきます。これは、上矢作っ子の心の様子が十分に落ち着いているからこそできる受け答えだととらえています。

今年度も残すところ1ヶ月ほどとなりました。上で述べたようなことも自分自身の伸びや成長ととらえて、学年の締めくくりと次の学年の目標作りをしてほしいと思います。

上矢作っ子の活躍

- * 第20回恵那市こども版画コンクール
- 恵那市教育長賞 6年 市岡芳國
- 第20回記念賞 5年 荻山七緒
- 日本大正村理事長賞 2年 片桐礼乃
- 入選 1年 小木曾花帆、3年 荻山朔、鈴木拓馬
- 4年 伊藤綾美、松下夕祐
- 5年 小林真菜美、6年 太田舞



片桐礼乃 作品



荻山七緒 作品



市岡芳國 作品